

ふきのとう 文庫だより

昭和48年1月13日第三種郵便物承認

HSK通巻番号584号

発行 令和2年11月10日

毎月10日発行 一部100円

編集 〒060-0006

札幌市中央区北6条西12丁目8番3

公益財団法人ふきのとう文庫

電話 (011) 222-4839

FAX (011) 222-4800

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会

細川久美子

「コロナ禍」の下のふきのとう文庫

公益財団法人 ふきのとう文庫 代表理事 高倉 嗣 昌

二〇二〇年正月には予想されていなかった「コロナ禍」に巻き込まれて、公立図書館が事実上活動停止せざるを得なかった中、当「ふきのとう文庫子ども図書館」では、布の本の製作活動が縮小されながらも、次々といただく注文に対応する型でしたが継続してまいりまして、熱意あるボランティアと、常設の工房を持っている強みを発揮することができたと思っております。

逆に活動停止した「閲覧、貸出」の方は、その再開に際して少なくともボランティアの方々の納得の行く感染防止策等を整える必要から時間を要し、その再開が公立図書館より十日ほど遅れて、即応性に少し課題が生まれました。

六月十四日からの再開は閲覧だけでしたが、来館者からの要望が高かった貸出しに踏み切ったのは七月五日からでした。今は順次子ども達もどって来てくれております。

当図書館の最大の「売り」であった布の本は、閲覧棚から一切撤去、空洞になってしまいました。子ども達も届かない壁に頁をばらして画鋏で貼ったり、タペストリーもこれまでとは別のテーマを取り入れて貼り替えたり、日々消毒のできる範囲（消毒機に入る容量は一〇冊程度）で開架したりなどいろいろと工夫しながら、子ども達と布の本との関係を絶たないようにしています（布の遊具の方はまだ）。

多目的ホールを使うイベントは、基本が密と飛沫を防止ですので大きな制約の下、参加人数を制限しながら、ボランティアの演者が承諾して下さった場合には開催する型で細々とやっております。しかし人数制限を越えてしまい参加をお断りするケースや、これまでになかった新しい企画が出てくるなど、閉塞状態を脱却する面も見られます。

総て回復傾向の中、秋が深まり気温の降下のせいか

新型コロナウイルス患者数が札幌で急上昇してしまい、道の警戒レベルが上がったことなどで、例えば当図書館の代表的な外部（道）との連携イベントである「木育ひろば」や、予定していた札幌市内私立大学学生の数回に及ぶ見学会や実習などが中止、延期になるなど、又しても縮小の要因が出てきました。

もう目前にきた来年度事業計画や予算の立案にも、大きな影響を受けざるを得ません。

今私の頭の中には二つのことが鳴り響いています。第一は、国、道、市の警戒レベルがあがると、不要不急の用件として図書館が入れられてしまうことです。

社会が閉鎖的になりがちこんな時にこそ図書館が、特に子ども図書館のはたすべき役割が大きいのではないかと思うのですが、「クラスター」発生の危険性の方が強調されてしまいます。当図書館は私立であり、独立の方針で運営できるのですが、結局広く一般的な流れに従わざるを得ないもどかしさを感じます。より事態が悪化しないよう願うばかりです。

今一つは、「コロナ禍」による厳しい世相や経済状況の中、当文庫の経済状態がタイトなことを理由にいろいろご支援をお願いするのみでは通らなくなっており、当文庫の存在意義を広く認識していただけるような積極的な活動を展開して行かなければならないという事です。

文庫だより一二〇号一頁目に「ピンチをバネに」と書きましたが、その具体的方策についてはまだ模索中の段階です。

困難が増す渦中であって、とにかく今はめげずあせらず、地道に取り組んで行くことだと考えております。動きが鈍りがちですが、どうかお見放しなく、物心両面にわたりお引き立て、ご支援をお願い致します。

上半期を終えて

昨年この時期は、収入活動（特に寄付金収入）が不振で、この時点で収支の差額が二桁、しかも僅か三六万円と以降の資金繰りに多大な不安を持たざるを得ませんでした。

皆様方のご協力を仰いで何とか急場を凌ぐことが出来ました。

本当にありがとうございました。

今年度は表をご覧頂きますように、かなりの余裕があり先々の心配は必要ないと考えています。

ただひとつ残念なことは、コロナウィルスのため全国的に事業活動が縮小されており、事業収入の伸び悩みとなってしまいました。

とにかく今期の後半に向けて、早期のコロナ縮小を祈りながら、頑張つてまいります。

上半期 収支実績

令和2年度9月末

単位千円

	予 算	2年9月末	前年同月	前前年同月
収入の部				
賛助会費	2,600	2,266	1,966	1,940
寄付金等	3,200	1,435	661	3,422
助成金	1,500	1,600	1,500	1,500
事業収入	2,390	542	1,200	819
雑収入	10			
合 計	9,700	5,843	5,327	7,681
支出の部				
管理費	6,200	2,724	3,357	3,436
事業費	3,500	1,354	1,611	1,637
合 計	9,700	4,078	4,968	5,073
収支差益	0	1,765	359	2,608

◆視覚支援校中学部 一年生の社会見学

十月二十日に札幌支援校の生徒さん三名、引率の先生三名が社会見学で午前中一時間半程度の間、見学されました。

生徒の皆さんは初め緊張の面持ちでしたが、それぞれ先生と一緒に図書室の書架を回ってから、奥のテーブルに集いました。全盲のMさんは先生に民話の本二冊を読んで貰いました。弱視のT君は恐竜の本を読みながら日頃関心のあることについて私たちに話をしてくれました。折り紙の好きな弱視のAさんは棚にあった折り紙作品を知っ



て、自分でもメダルを折っていました。角もきちんと合わせて、とても綺麗な折り上がりでした。

次に多目的室に展示されていた布の絵本をみんなで見えて触って楽しみました。特に布の遊具のリングやミカンマジックテープの付いている皮をむいたり付いたりする動作に興味を持ってくれたようでした。その後、二階の制作室へ移りました。私たちへの質疑応答では、Tさんがその内容を点字器で書き取る姿が印象に残りました。

三人の生徒さんのそれぞれ前向きな姿勢に出会ってとても清々しい気持ちになりました。ふきのとうこども図書館の楽しさを分かってもらえましたが？次は、ぜひ遊びに来てくださいね。



新しい拡大写本できました。



草原のサラ (全2冊)

パトリシア・マクミラン 作



ドラえもん プラス3 (全2冊)

藤子・F・不二雄 作



さるのオズワルド

エゴン・マチーセン 作



こども 六法 (全7冊)

山崎聡一郎 著作



みてても いい?

磯 みゆき 作



大どろぼうホッツェンプロッツ ふたたびあらわる (全4冊)

プロイスラー 作



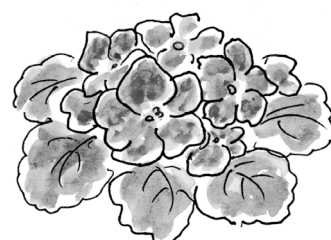
二年二組のたからばこ

山本 悦子 作



動物と話せる少女 (全4冊) リリアーネ (全4冊)

タニア・シュテーブナー 作



◆布の本閲覧再開と 除菌ロッカーの使用◆

十一月一日から待望の布の本の閲覧を再開しました。まだ、以前のように多くの布の本は出していませんが、状況を見ながら徐々に増やしていこうと思っています。そこで心配になるのは、新型コロナウイルスの感染です。布のほうが、紙の本よりもウイルスが付着する恐れがあります。そこで当図書館では、以前から布の本の除菌を行っています。毎日除菌ロッカーでの殺菌を行っています。

このロッカーは、病院の医者の白衣などを除菌するためのものですが、それを布の本の除菌に使っています。利用者みなさんが安心して布の本に触れるよう、日々、努力していますので、安心して読んでいただきたいと思います。



布の本が入ったロッカーの中



ロッカーの表示

図書係・布の本・ 拡大写本の活動状況

図書係の活動

図書 田上 明子

七月五日から本の閲覧、貸し出しを始めました。最初は、来館数も少なかったのですが、月を追うごとに増えていき、貸し出し数も以前と変わらなくなっています。まだ、コロナの状況なので、家で読書しているという方が増えて、家族分の本を一〇冊、一五冊と借りていく人も多くなっています。利用者に閉館の時はどうやって子どもたちにも本を読ませていたかを聞いたところ、家にある本を何度も読んだり、友だちと貸し借りしたりなど色々な工夫がありました。やはりこの図書館が開くのを心待ちにしていたという嬉しい意見を言われる方もいました。

もう借りられるだろうかと恐る恐る図書館のドアを開けた人もいて、そのお知らせ方法がなかなか見つからない状態でした。ホームページはあるのですが、なかなかそれを見ることもないのが現状

状でしょうか。

西野平和からこちらに移転してまる五年が経ちますが、図書係のボランティアを辞めていく人も出ています。コロナのせいではないのでしょうか、新たなボランティアの募集もしました。それにより、数名の方が加わりました。



館内の布のタペストリー

布の本グループの現在の状況など

布の本 出村 厚子

布の本グループの活動は少しずつですが、通常に戻りつつあります。製作活動は六月から通常通り行っています。

十一月一日から一日に一〇冊程度ですが布の本の閲覧を開始しました。布の本は毎日、除菌ロックスで消毒して翌日また棚に戻しています。貸し出しは、新型コロナウイルス感染のことを考え、いまだ控えています。

十一月開催予定だった「木育ひろばINふきのとう文庫」は延期になり、十一月、十二月の講習





館内の布の本



書棚に入った布の本

会はすべて中止となりました。他の展示会などの開催も難しく、今後のコロナの状況を踏まえて検討していきます。このような状況の中、訪れた子どもたちが少しでも楽しんでほしいとの思いから、図書館内の壁一面に布の本やタペストリーを展示しました。ぜひ、来館して見ていただけたら嬉しいです。

拡大写本グループの活動は今

拡大写本 山本 淳子

コロナウィルスの対策で密にならないように午前グループ、午後グループに分れての活動にも少しずつ慣れてきましたが、全員に伝えたい事柄など一遍に伝えることが出来ず漏れてしまうこともあって、ボランティアのみんなも戸惑うこともあると思います。まだまだ全員が集まって話をする機会を持たないことに歯がゆさを感じています。しかし、この間にみんなの力で八冊の拡大写本を仕上げました。はやくこのコロナ禍が収まり正常な活動に戻れることを祈らずにはいられません。



書棚より

「一ふさのぶどう」

有島 武郎

作家有島武郎は札幌農学校出身であり、北海道ともゆかりのある人だ。彼が児童雑誌「赤い鳥」に大正九年に発表した童話が「一ふさのぶどう」で、これ以外の六編を集めたのが偕成社文庫からだされていた。当図書館の蔵書としてはとても古い本で四〇年以上も前のものである。その裏のページには「札幌市中央区北一条東一丁目明星館内 ふきのとう文庫」というスタンプが押してある。当時、札幌基督教会明星館の一面を借りていた時代のものだ。今では二万冊を超える蔵書があるけれど、その時はどれくらいだったのだろうと昔に思いを馳せる。

有島は子どもに与える童話に深い関心を



持っていて、「子どもの実感を子どもになり代わって書く童話が必要だ」として言っていたという。この話は明治の中頃、横浜の外国人も通うミッションスクールでの体験を書いたもので、絵を描くことが好きな少年が学友の持っていた絵の具二色を盗んでしまったことが題材となっている。横浜の港に停泊している船や海の青さなどを何度も描いていた主人公の少年だが、どうしてもその感じが出せない。そんなとき、同じクラスの外国人の子どもが持っている絵の具を見てしまい、それに憧れを抱く。そしてある日、休憩時間にみんな出払っているとき盗んでしまう。子どもたちが教場（当時は教室をそう呼んでいたようだ）に戻ってきて、なくなった絵の具のことが分かり、その時、残っていた少年を怪しみみんなで追及する。ポケットから2本の絵の具が見つかり、担任の女教師のところに連れて行かれる。教師は他のみんなを教場に返して、少年と話をする。次の授業は出なくてもいいから、教師の部屋にいなさいと窓辺のツタになっていた一ふさのぶどうを取って与える。それを食べるどころではない少年は様々な思いで教師が戻ってくるのを待っていたが、ちよつと居眠りをしてしまう。教師が戻ってきて、食べていなかったぶどうを持たせて家に帰す。翌日、学校をどうにか休めないものかと考えるが、さほどの理由もなく仕方な

しに登校すると、前日、怒っていた友だちが何事もなかったように少年に接して心からホッとするとする。それには教師からの言い含めもあったようだった。再び教師のもとに行った少年と友だちだが、教師は少年に昨日のぶどうは美味しかったかを聞く。色々あったのだが、ぶどうは美味しかったことを恥ずかしそうに認める。教師はまた、窓辺のぶどうを細長い銀色のハサミで切って少年と友だちに渡してくれる。そのときから、少年はまえより少しいい子になり、少しはにかみ屋でなくなったみたいだと回想する。そして、大好きだったあの教師はどこに行っただろうかと思う。時が経ち、秋になつてむらさきに色づいて少し粉をふいたぶどうを見ると、あの大理石のように白い手がどこにも見つからないことを思ってしまう。

最初に読んだときは、子どもながら物を盗むことに童話らしからぬ話かと思ったが、読み直していくうちに子どもの心境が伝わってきて最後はほろつとしてしまった。現代の子どもたちがこれを読んだらどんな感想を持つだろうかと、誰かに読ませたくなった。大正・昭和の子どもたちと今とではどれくらい違うのだろうか。同じなのだろうか。物語とは、何も劇的でなくとも想像力が膨らむものがあるものだと思った。

（図書係 野田）

2020年7月以降賛助会費納入一覧

安藤 淑子	池野 正俊	井上せつ子
宇井三喜子	植竹 俊光	大野 公子
小笠原良次	岡田 桂子	小原 静香
熊谷 勝宏	黒木 克己	河野 智美
古賀 恭子	古賀 裕久	後藤 正憲
坂本 孝子	佐藤 一子	重泉 敏聖
島田 紘	島田小夜子	下村 愛(ひとみの教室)
杉浦 正人	砂金千佳子	高倉 聖哉
武井 昭也	田辺 敏子	出村 洋平
當瀬 規嗣	時任 顕正	長田 雪枝
中村 美絵	西村 宏子	濱崎 京子
原田 宏子	福島美恵子	藤井 雅裕
松尾 絵美	松岡 享子	水口 忠
村上 稱美	村上 禮子	森下 宏美
山本 好枝	横路由美子	
札幌視覚支援学校・出井 博之		
伊達ブンブン文庫・葛西 結花		
とも育ちの森えぞりす		
北海学園大学同窓会		
ゆずりはの会・荒木千華恵		

2020年7月以降寄附金納入一覧

宇井三喜子	大内 和子	金沢 幾子
古賀 恭子	後藤 正憲	佐藤 香
城 典子	仙台いずみ	高倉実枝子
橋本真知子	平間 博貴	福島美恵子
藤田 宮子	方川 正弘	宮本美栄子
村上 禮子	匿名2名	

(有)ダイヤモンドおたき

株式会社 リクルートライフスタイル
生活クラブ生活協同組合

2020年7月以降寄贈一覧

7月5日	林 恵美子	洗剤他
7月17日	偕成社	絵本 1冊
7月13日	野田 龍一	書籍 2冊
7月19日	童心社	絵本 1冊
8月3日	呉 季陽	絵本 7冊
8月9日	童心社	絵本 1冊
8月24日	相原 沙織	絵本他 30冊
8月24日	久保田 亨	小窓用ブラインド
	イオン(株)	社史
8月25日	寺尾 直子	絵本 3冊
8月28日	高橋まり子	児童書 10冊
8月31日	上原ゆう子	絵本 1冊
	(株) 図書館ネットワークサービス	
9月7日	伊東 昭義	児童書他 23冊
9月8日	童心社	写真集 1冊
9月13日	童心社	絵本 2冊
9月18日	講談社	絵本 1冊
9月18日	(株) ミクシー	児童書他 1冊
	モスコスメティックス(株)	書籍 1冊
9月29日	高橋まり子	書籍 1冊
10月4日	(株) 学研ホールディングス	児童書 9冊
10月9日	童心社	絵本 1冊
10月11日	(株) 学研プラス	児童書 1冊

賛助費、寄附、寄贈ご芳名

ご支援ありがとうございました。

10月14日 藤橋 美代

10月18日 童心社

10月25日 童心社

10月31日 童心社

行事一覧

7月5日 絵本・児童書貸出し再開

7月26日 腹笑い会

8月9日 うたう会

8月14日 (ほっとたいむ)

8月21日 (ほっとたいむ)

8月28日 (ほっとたいむ)

9月4日 (ほっとたいむ)

9月11日 (ほっとたいむ)

伊藤忠記念財団 来館 2名

10月18日 おはなし会

10月19日 運営会議

10月23日 (ほっとたいむ)

10月25日 評議員会中止

北翔大学 学生4名



消毒液

児童書

絵本

絵本

1冊
1冊
1冊
1冊

—— 布の本テキスト・材料セット価格表 ——

材料セットには作り方説明書を同封しています。

テキスト No	布の絵本	テキスト	材 料 セット	テキスト No	布の絵本	テキスト	材 料 セット	テキスト No	布の絵本	テキスト	材 料 セット
11	かくれんぼだあれ	200円	販売終了	16	まる	200円	3320円	遊具	ジャンケンサイコロ	なし	600円
12	MY BOOK	200円	3320円	17	むし	200円	2230円	遊具	やさいセット(8種)	なし	600円
	このいろなあに		3850円		ちいさいおおきい	200円	3030円	遊具	くだものセット(7種)	なし	500円
13	のりもの	200円	1620円		さかな		1720円		どうぶつとなかよし	なし	1600円
	だれのうち		3320円		わっ!	なし	1720円		おいしいね!	なし	1600円
14	Greeting	200円	3030円		ドレミのうた	なし	5020円		おはな	なし	1600円
	おやつ		1720円	新作	ばあ!	なし	2200円		のりたいな	なし	1600円
15	おかあさん	200円	3030円		どんぐりころころ	なし	4360円		うみのともだち	なし	1600円
	どうぶつ		1820円		おむすびころりん	なし	5560円		とりのなかま	なし	1600円
									どうぶつだいすき	なし	1600円
									とり	なし	1600円



図書館内での販売品について

布の本テキスト・材料セットについては郵送での販売を行っていますが、館内では布の遊具や手づくりの小物などを販売して来館者に喜ばれています。お手玉やジャンケンさいころ、布のやさいやくだもの、本のしおりなど様々なものが展示販売されています。この時期でしたら、クリスマスのオーナメントなどもあり好評です。布の本グループのボランティアが作っていますが、数に限りがあり、品切れのものもあります。図書館に越しの際には、是非、手にとってみてはいかがでしょうか。

あとがき

本来ならば、コロナ禍を少し克服して、状況が良くなったと書いているはずだったが、十一月の時点で北海道は感染者が増加の一途をたどっている。ここ数ヶ月、図書館の利用者も徐々に増えていく、これならば来年には正常に戻るかもと思っていた矢先のことである。新型コロナウイルスとは長期戦を覚悟しなければならぬことになった。

そこで、今こそ図書館の役割が重要になってきていると感じている。三密を回避しながら、自宅で楽しく読書することが心のゆとりとなるかもしれない。そのため、安全性に工夫しながら、来館者を待っている状態だ。図書館が安全であることを知らしめながら、なお一層の注意を怠らず、子どもたちの笑顔にありつこう。その報告が次号で出来ることを期待している。

編集 公益財団法人ふきのとう文庫
代表理事 高倉 嗣 昌

〒060-0006 札幌市中央区北 6 条西12丁目 8

☎ 011-222-4839 FAX 011-222-4800

http://www.fukinotou.org

E-mail:fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp

令和 2 年11月10日 発行

毎月10日発行一部100円(維持会費に含む)

昭和48年 1 月13日 第 3 種郵便物承認

HSK 通巻584号

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会

細 川 久美子

郵便振替 = 02720-3-2300 銀行口座 = 北洋銀行本店営業部普通預金 0035764 公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、“北海道共同募金会の配分”により刊行しています。

維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。